

（ お金と時間、とらえ方次第で暮らしは変わる ）



どんな家で子どもを育てたいか、住宅費はいくらまでなら無理がないか、親の通勤時間はどこまで許容できるか。大切にしたいものに思いを巡らしながら、最善の選択を考えましょう。

CHECK POINT

2
通勤時間が許容範囲である

1
住宅ローンが現実的に返済可能

きたもとメモ

戸建ての最多価格が2000万円台
都心の人気エリアに土地30坪、4LDKの戸建を購入する場合は6000万円以上が相場。北本市であれば土地40坪、庭付きの4LDKが2000万円台から見つかる。

◎ 東京都世田谷区など（都心部）
6000万円～
◎ 埼玉県北本市
2000万円～

都心にもアクセス◎
都内まで乗り換えなしで移動できる。新宿駅や渋谷駅へは湘南新宿ライン、東京駅までは上野東京ラインで1時間以内。都心に通勤している人も多い。

◎ JR 北本駅～JR 新宿駅
(JR 湘南新宿ライン)
約45分
◎ JR 北本駅～JR 東京駅
(JR 上野東京ライン)
約50分

住まいのコストと通勤時間
天秤にかける

子育てでまず問題になるのは、家族の住まいについて。子どもの成長を見据えて、持ち家を検討するご家庭も多いでしょう。そこで頭を悩ますのが住宅コストと通勤時間のバランスです。「都心に4LDKの一戸建てを購入するならば6000万円が相場です。その際、35年間、金利2%で住宅ローンを組むと、5000万円の借り入れで毎月約17万円の返済。これはかなり負担が大きいですね。北本市なら同レベルの物件で、約2000万円の借り入れ、

月6万円程度の返済。暮らしの余裕がまったく違います。住宅ローンは、「借り入れ可能額」ではなく、「返済可能額」で計算するべきです（有田さん）

通勤や通学のコストについては、「企業の通勤手当は会社が負担してくれる場合もあります。子どもが都心に電車通学するようになった場合、隣接県からなら月額1万円前後で収まるでしょう」（有田さん）

都心勤務では、通勤時間が1時間半を超える人も珍しくありませんが、北本市からなら新宿まで特別快速で45分。住まいのコストと通勤時間の比重をどう考えるかは、家族でじっくり話し合いまししょう。



P.17
通勤時間が許容範囲である



P.17
住宅ローンが現実的に返済可能

P.18-19
生活しやすい街で犯罪率も低い



P.18-19
豊かな自然に恵まれつつ災害リスクも低い



住み始めてから後悔しない!

「子育てする街」7つのチェックポイント

近年、若いファミリーでもあえて都心を離れ、子育てしやすい街に暮らす人が多く見られます。「住めば都」とはいえ、生活環境、保育・教育体制、行政のサポートなどは家族に大きく影響するもの。そこで、失敗しない街選びのポイントを、日本子育て支援協会理事の藤田洋さんと、ファイナンシャルプランナーの有田美津子さんの2人が詳しく紹介します!

P.18-19
地域のつながりが強く街ぐるみで子どもを守る



街選びのスペシャリスト

一般社団法人 日本子育て支援協会
藤田洋さん

暮らしと子育てママを応援するファイナンシャルプランナー
有田美津子さん



P.20-21
自治体が積極的に教育支援をしている



P.20-21
子育てファミリーの暮らしを応援する施策がある



利便性と治安がいい
街の条件

- ◎主要道路は歩道が整備されている
- ◎通学路が交通面・防犯面において安心
- ◎見通しの良い公園がある
- ◎各科の病院がそれぞれある
- ◎24時間救急対応の病院がある
- ◎頻繁に利用する交通機関が徒歩圏内にある
- ◎通わせたいと思える教育機関(幼稚園・小学校・中学校)がある
- ◎保育所・託児所の施設がある
- ◎買い物に便利なスーパーがある
- ◎子ども連れで入れるお店がある(ファミリーレストラン等)
- ◎児童館等の施設が充実している

きたもと
メモ

便利なデマンドバス

定まったルートはなく、利用者の予約に応じて運行されるデマンドバス。北本市では平成23年から本格的に導入された。市内在住、在勤、在学であれば利用者登録して誰でも利用できる。運賃は1人片道300円(小学生は150円、小学生未満は無料)。市全域がルートの対象になっている例は、全国でも珍しい。

地域で安心・安全を支える
仕組みで犯罪件数の少なさ
県内トップクラス

自治会や交通安全・防犯団体など、さまざまな人たちが協働で地域の安全・安心を支えているため、犯罪発生率は埼玉県内でも低い。小学生の登下校時には、交差点などの危険な場所で安全に登下校できるような地域で見守り活動を行っている。



「地域の連携」というと、「面倒くさい」というイメージを抱く人も多いかもしれませんが、地域では、住民の意識が高くなるおかげで、治安が良くなる傾向が。「地域の大人たちに見守ってもらえる環境は、子どもの成長にとって理想的です。商店街の人たちを知っていれば、お手伝いのひとつとして、安心して子どもをお使いに出すこともできますよね(藤田さん)」

地域に解け込みやすいのは、地元のお祭りや子ども会、スポーツ少年団、公民館等イベントが盛んな地域だそう。また、親同士の交流の場も大切です。「地域と行政が連携して、お母さん同士が自然に交流できる場所や機会を作り出しているといいですね。働くお母さんも仲間に入りやすい育児サークルなどもあればベストです。現代は、最後の不安に『孤独』を挙げる人が多いですが、地域で生まれるネットワークは一生の宝。地域の連携は、子どもはもちろん、お母さんにも優しいんですよ(有田さん)」

安心できる環境の鍵は
「地域の連携力」

安心、安全、便利。 街の力が 子どもを守る

災害、犯罪や事故など子育てには思わぬ事態も予想されます。安心して子どもを育てられる環境について知っておきましょう。

CHECK
POINT

5

地域のつながりが
強く街ぐるみで
子どもを守る

4

生活しやすい
街で
犯罪率も低い

3

豊かな自然に
恵まれつつ
災害リスクも低い

子育てしやすい
自然環境とは?

独身や夫婦2人であれば、都心で自由気ままに暮らすのも楽しいもの。しかし子育て環境としては、のびのび生活できる郊外に魅力を感じる方も多くいます。ただし、郊外といっても、その環境はさまざま。子育てに優しい環境を見定めるポイントは、どこにあるのでしょうか。

「大切なのは、豊かな自然環境があることです。公園や運動場など、屋外に広い遊び場があるか。子どもの好きな水遊びができる公園があるか。子どもが土に触れる体験ができる貸し菜園や家庭菜園などがあるか。どのような場所でもどんな風に育てるか、子育ての可能性が広がります(藤田さん)」

地域の災害リスクは
住む前に調べる

平成23年の震災以降、防災は大きな関心事となりましたが、子育て中のご家族ならなおさらです。

「近年では、大雨による土砂崩れや川の氾濫など、想定外の災害も多くあり、完全に防ぐのは難しいものの、その土

地でどういった災害の危険性があるのか、自治体の対策は十分か、避難経路や避難場所の安全対策は済んでいるか。住む前に調べておくことはできます(藤田さん)」

きたもと
メモ

豊かな自然&
安定した地盤
災害リスクが低い

北本中央緑地や北本総合公園、高尾さくら公園など、豊かな自然も広がる北本市。大宮台地に位置し、地震などの災害にも強い。小中学校の耐震化率も100%を達成している。



きたもとメモ

無料塾で公立教育をバックアップ

北本市では中学3年生を中心に、学習塾と自習支援を一体化させた「北本市営ナイトスクール」を無料で実施している。学力格差の解消をめざし、学習のつまづきを早期にサポート。公民館や各中学校が会場で、中学生が参加しやすい環境が作られている。



安全できれいな校舎

小中学校の耐震工事と大規模改修工事を実施。安全できれいな校舎・体育館になった。さらに、すべての教室にエアコンを設置、老朽化していたトイレの改修、小学校のプール改修などを行い、子どもたちが気持ちよく学習できる環境が整っている。



温かくて美味しい給食を提供

北本市では、すべての小中学校が自校式給食で、給食センター方式と違い、出来たての給食を提供。桜をあしらったきれいな強化磁器食器を使用する。子どもたちからは温かく美味しい給食が大好きという声が多く聞かれ、給食の時間は笑顔があふれている。



自治体によっては公立教育+αの仕組みも

子どもの豊かな成長のために独自の教育制度を模索する自治体も増えてきています。いじめや引きこもり対策を学校任せにせず、自治体でバックアップしているケースも。子どもが小学校・中学校・高校へと通うようになったときのことを見据えて居住地を選ぶ。それが賢い選択です。

「どんな子どもたちや親御さんがいるか、車や人の交通マナーは大丈夫か、地域の人たちとの挨拶はあるか。眺めているだけでも、その地域の教育環境が見えてきます」（藤田さん）
また、自治体の取り組み内容によっては、子どもの学習だけでなく、家計にも大きなメリットがあるそうです。「子育てにかかる平均的な費用は、幼稚園から高校まですべて公立の場合で約500万円、すべて私立の場合で約1700万円と、1000万円以上の差があります。教育費は、子育てにかかる費用のなかで最も負担が大きい部分。公的な教育サポートが手厚かったり、スポーツ少年団が盛んであれば、塾や習い事の費用を抑えられるケースもあります」（有田さん）

生まれてすぐも、大きくなっても、街が家族を支える

意外に知られていませんが、子育て世代への支援策は自治体によってさまざまです。定住する街を選ぶときは、行政支援や教育環境の充実度を必ず確認しましょう。



7 自治体が積極的に教育支援をしている

6 子育てファミリーの暮らしを応援する施策がある

自治体の行政支援で
あるといいものは？

出産費用の助成や児童手当など、国の一律の支援とは異なり、自治体の支援には大きな地域差があります。支援の乏しい自治体を選ぶか、魅力的な支援がある自治体を選ぶかで、暮らしや家計は大きく変わります。

藤田さんと有田さんは、「行政支援の中で特に着目すべきことは、妊娠・出産・幼児期の子育て支援策がいかにか充実しているか」と口をそろえます。「乳児医療費助成などの金銭的サポートはもちろん、緑豊かな公園や広々とした児童館など、公共施設がきちんと整備されていることも重要なポイント。働きながら子育てする場合は、保育園や病児保育、学童保育などの行政サポートが十分に整っていることも欠かせないポイントです」（藤田さん）

「子どもが生まれると、おむつ代だけでも月に4000〜6000円程度かかるといわれています。育児休業中や時短勤務などで収入が一時的に減少するご家庭もあり、生活費をどれだけ抑えられるか、皆さん頭を悩ませるところ。北本市が実施している「0歳児お

支援の充実度は自治体の公式サイトで

自治体による支援については、どのように調べるのがよいのでしょうか。「まずは自治体の公式サイトを確認しましょう。自治体によって充実度や見やすさが違います」（藤田さん）

SNSなどでも情報発信がさかんに行われている自治体は、それだけ熱心に運営していると想像できます。

きたもとメモ

まちに笑顔が広がる市民大学「キタガク」

専門知識をもつ市民が「市民教授」となり、語学・スポーツ・料理などさまざまな分野の講座を提供。ベビーマッサージやリトミックなど、親子で参加できる講座も充実。子どもから大人まで幅広い世代が参加する。

